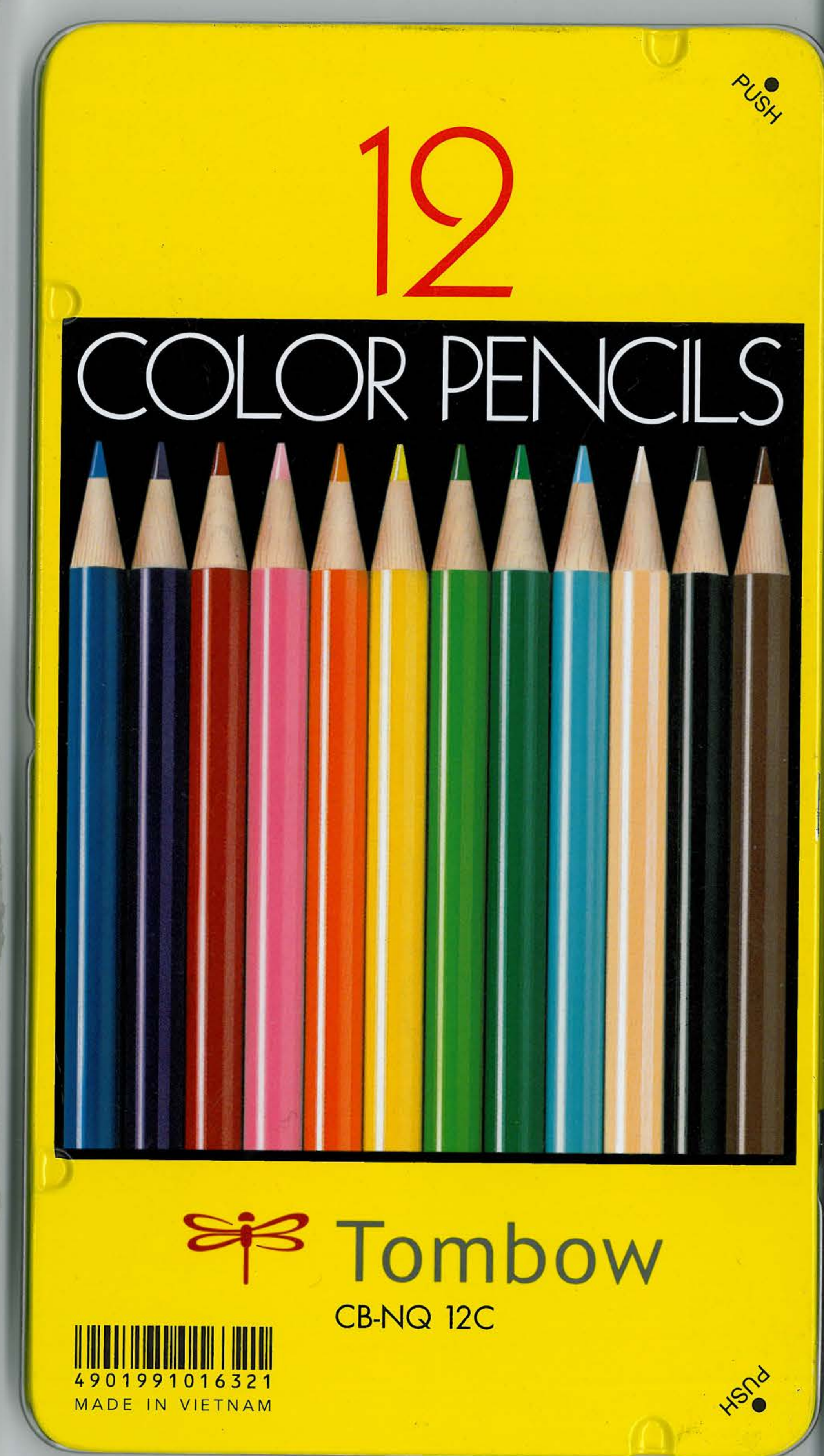


此を楠の根に寝かせ陣太
刀を腰に及膝を龍衣はし
すうに天上にわかに曇り
雨りや降るぬ時に楠
の根に寝かせ白龍丸
にわかに泣叫ぶ重々夫に
あせれど敵中に身を動
せしむを待たず白龍丸
は眼のあたりへ奪はれたり
是道及膝此の日子寝の



1 40 9 8 7 6 5 4 3 2 1 30 9 8 7 6 5 4 3 2 1 20 9 8 7 6 5 4 3 2 1 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

古道及解此の日子後の
満願日くく白龍丸の後の
かる大如理を悦び現る丸と
名付く育へ給へる現る丸
幼少七戈くく石垣山觀音
寺精覺師師及河内
權藏孝子に学ぶへる戈
たり然るに現る丸生長
くく戈を越えり折より心
身共に武断に長く石垣の
鬼童と世人に稱されぬ
嘉應乙丑元年石垣境内
に閑坐大法名龍眼和尚に
式められ再度学文に精

2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 25cm

一、才を越えし一析す心
身其に武断に長ど石垣の
鬼童と世人に稱され為
嘉應己丑元年 石垣境内
に閩人某夫法名龍眼和尚に
式一められ其皮を文に精
魂一我とせりぬ承安
辛卯の元年八月二日長
守守國平、高平總に兵
を起し、武道及所居殿を
攻むる時に現るは初陣
し、寄るまゝ激中に戦ふ
然るに同果たぬ父子と
て相知るよりも無くと長